


[トップページ](#)
[財団概要](#)
[顕彰・助成事業](#)
[情報公開等](#)
[応募方法等](#)
[トップページ](#) > [【顕彰・助成事業】 研究助成：研究助成の概要](#)

顕彰・助成事業

[大川賞](#)
[大川出版賞](#)
[研究助成](#)
[研究助成の概要](#)
[研究助成対象者](#)
[研究助成審査委員会](#)
[活動実績](#)

研究助成

[研究助成の概要](#)
[研究助成対象者](#)
[研究助成審査委員会](#)

研究助成の概要

情報通信分野において、独創性のある、先進的または社会的に有用な調査・研究に対して助成を行います。

▶ 助成対象者

日本国内の情報・通信分野に関連する研究機関、教育機関に所属する研究者

※海外の研究機関、教育機関に所属する研究者に対する研究助成については、財団が指定する機関による推薦を必要とします。

▶ 助成金額

1件あたり100万円(日本・中国・韓国)／1万ドル(米国)

▶ 助成対象分野

分 野		分野の説明・キーワードの例
1	基礎	情報・通信に関する基礎的な調査・研究 (例)計算量理論、アルゴリズム理論、量子計算理論、量子情報通信、暗号理論、統計的学習理論、符号理論等
2	通信・インターネット	情報通信網・通信技術等に関する調査・研究 (例)インターネット、ネットワークアーキテクチャ、ネットワークプロトコル、ユビキタスネットワーク、モバイルネットワーク、センサーネットワーク、セキュリティ、Web技術、サービス構築基盤技術、ネットワーク運用技術、無線通信技術、高速通信等
3	コンピュータシステム	情報システム・コンピュータ科学等に関する調査・研究 (例)計算機アーキテクチャ、基盤ソフトウェア、プログラミング言語、ウェアラブルコンピューティング、クラウドコンピューティング、サービスコンピューティング、データベースシステム、ビッグデータ活用技術等
4	人工知能	知識処理、認知科学等に関する調査・研究 (例)知覚(視覚、聴覚、触覚)、認知・記憶・教育、学習、思考・推論・問題解決、感性、複雑系、知能ロボット、感情コンピューティング、アドバンス・インテリジェンス等
5	バイオ	バイオ技術に関連する研究のうち主に情報・通信に関連する調査・研究 (例)バイオインフォマティクス、計算生物学、システム生物学、メディカルインフォマティクス等
6	応用(A)	主に情報・通信に関する工学的な応用調査・研究 (例)画像、音声、言語、パターン認識、ロボティクス、マルチメディア、ヒューマン・コンピュータ・インタラクション(VR・MR、ユーザビリティ、五感情報処理等を含む)、サイバーフィジカルシステム等
7	応用(B)	医療、福祉、教育、芸術等における情報・通信技術の適用に関する応用調査・研究 (例)ヘルスケア、遠隔治療、遠隔生活習慣改善援助、情報環境、減災・復興支援、スマートシティ、スマートグリッド、ライフログ、社会ネットワーク、デジタルコンテンツ、デジタルアート、エンタテインメント等

8	人文・社会科学	情報・通信、メディア等の社会への普及、影響等に関する調査・研究 (例) デジタルヒューマニティーズ、ビジネスモデル、情報経済、オープンソース、ソーシャルメディア、著作権・ライセンス、eコマース、デジタルコンテンツ、情報・通信政策 および社会への影響、スマートフォン、タブレットなどの普及と情報・通信・マスメディアへの影響等
---	---------	---

▶ 選考について

学識経験者からなる研究助成審査委員会において、中立的な立場から厳正なる審査・選考を行います。

▶ 助成金の使途

原則として申請時の支出計画に基づいて使用するものとします。

▶ 研究期間

原則として1年間

▶ 研究成果の報告について

研究成果の概要と会計を別途定める様式にしたがって提出していただきます。

(研究成果の概要は「助成研究成果概要データベース」に登録されるなど、広く公開されます。)

なお、助成金による研究調査の結果生じた特許権、著作権は、原則として研究者に帰属するものとします。

▶ [応募する](#)

📌 [このページのトップへ](#)

2021 年 3 月 吉日

研究助成ご担当者 様

公益財団法人 JFE21 世紀財団
理事長 柿木 厚司

2021 年度「アジア歴史研究助成」候補研究募集のご案内

拝啓

早春の候 貴学にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

JFE21 世紀財団は、1990 年に「川鉄 21 世紀財団」として発足し、大学研究助成事業を中心に活動して参りました。2003 年 4 月に旧・川崎製鉄と旧・日本鋼管の経営統合による JFE グループの発足に伴って現名称となり、更に 2012 年 4 月からは公益財団法人として、引き続き大学研究助成等の公益事業を展開しております。

当財団の「アジア歴史研究助成」は、今年度で 17 年目を迎えます。2020 年度までの助成件数は 138 件で、研究助成金の累計金額は 2 億 7 百万円となります。

この度、2021 年度アジア歴史研究助成（公募による競争的研究資金の交付）の候補研究を、添付の募集要項に沿って募集いたします。（募集要項は当財団ホームページにも掲示しております）

つきましては、本研究助成について、貴学の関係する研究者の皆様にお知らせ頂きたいご案内を申し上げます。

本研究助成は「アジア歴史研究助成」と表しておりますが、対象は歴史研究に限らず、募集要項にも記述したアジア地域を対象とする人文、社会、経済、政治等の広範な分野としており、それらを研究する方々に応募いただきたいと願っています。そして、本研究助成の趣旨である「21 世紀アジアと共存・共栄するための日本の産業と文化の Vision 構築に資する」研究に対して研究資金を交付いたします。

財団 HP <http://www.jfe-21st-cf.or.jp> に申請様式を掲載しておりますので、奮ってご応募いただきますよう、よろしくお願いいたします。締切りは 6 月 18 日（金）としております。

まずは書中をもちましてご案内を申し上げます。

敬具

公益財団法人 JFE21 世紀財団 2021 年度 アジア歴史研究助成 募集要項

1. 助成対象となる研究

「21 世紀アジアと共存共栄するための、日本の産業と文化の Vision 構築に資するアジア歴史研究」

アジアの各地域はいずれもきわめて複雑な歴史をたどってきた。その結果として今日の政治、経済、社会、文化状況がある。本研究助成は、歴史的経緯を踏まえながら現況を直視し、未来を考える研究を対象とする。また、アジア各地域と日本の関係についての歴史と記憶の研究も含む。なお、研究対象地域は下記の範囲とする。

北・東アジア(日本、朝鮮半島、中国、モンゴル、ロシアの一部)、東南アジア、インド亜大陸~ 西アジア(中近東)、中央アジア~ カフカス地域

* 実質的に既に完了している研究や、特定機関からの委託研究は対象外とする。

* 上記条件に該当しない応募は、事務局判断で審査委員会に上申しない場合もある。

* 助成研究は公開を前提とする。(本財団にて助成研究報告書を発行、本財団ホームページ(HP)で公開)

2. 助成件数と助成金額

10 件 (原則)、1 件あたり 150 万円、総額 1,500 万円

* 助成金は代表研究者の所属する大学・研究機関に交付(指定銀行口座に 2021 年 12 月に振込)

* 助成金の使途は、参考書籍・文書購入費、設備・備品費、学会・調査旅費、研究補助者謝金等で、研究室運営費、学会等開催費、論文印刷・書籍刊行費などは不可とする。

3. 研究期間 原則 1 年間 (2022 年 1 月研究開始、同年 12 月終了、2023 年 1 月報告書提出)

但し、1 年間を上限として延長を可とする。(その場合 2024 年 1 月報告書提出)

4. 応募資格

日本の国公立大学または公的研究機関に勤務(常勤)する研究者であって国籍は問わない。なおグループでの研究の場合、代表研究者以外の共同研究者は 3 名以内で、大学院生および外国の大学、日本の他の大学や公的研究機関に所属する研究者も可とする。2018~ 2020 年度の本研究助成を代表研究者として受領した者は、代表研究者としての応募はできない。

5. 申請の手続き

本財団 HP の申請様式に記入し、HP 内の申請画面から財団に送信する。

財団 HP <http://www.jfe-21st-cf.or.jp/> 受付開始 4 月 19 日(月) : 締切 6 月 18 日(金)

* 記入と送信の要領は申請画面に掲載、電子申請につき郵送は不可とする。

6. 審査・選考と助成研究(者)の公表

本財団委嘱の審査委員会による審査・選考を経て本財団理事長が決定し、9 月末に応募者に結果を通知の後、本財団 HP 等で公表する。

審査委員長 梅村 坦 (中央大学名誉教授)

審査委員 菊池 秀明 (国際基督教大学教養学部 教授)

澁谷 鎮明 (中部大学国際関係学部 教授)

保坂 俊司 (中央大学国際情報学部 教授)

7. 助成受領研究者の義務と条件等

(1) 助成受領者は、本財団と「アジア歴史研究助成覚書」を交換

(2) 助成金の受領手続き(本財団所定の寄付申請書により大学・研究機関事務部に手続きを依頼)

(3) 贈呈式への代表研究者の出席(東京に於いて 12 月 8 日(水)開催予定、出席費用は本財団負担)

(4) 研究終了後、研究成果報告書(公開前提)と会計報告書を提出

(5) 研究論文等において本財団から助成があった旨を記載すること

以上

2021 年 5 月吉日

関係者各位

公益信託田島毓堂語彙研究基金
受託者 三菱UFJ信託銀行株式会社

「公益信託田島毓堂語彙研究基金」の募集について

拝啓 平素は、当基金の募集にご協力賜り、誠にありがとうございます。

当基金は、語彙研究に対する研究助成及び優れた業績に対する顕彰を行い、語彙研究のさらなる発展に寄与することを目的として 2004 年 3 月、田島毓堂氏(2004 年 3 月名古屋大学ご退官)より弊社が受託して設立された基金です。

今年度も、下記のとおり第 18 回目となる事業を実施することとなりました。

つきましては、お手数をお掛けしますが、募集について関係部署にご周知いただきますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 応募資格

大学・大学院の教員、又は大学院博士課程(前期・後期)に在籍する学生若しくは運営委員会が認める者(国籍は問わない)で、これまでに本助成金の受給・学術賞の受賞実績のない方。

2. 提出書類

応募申請書[研究助成(白色)・学術賞(アイボリー)]、応募資格を証明する書類等
* 研究助成・学術賞の各募集要項と応募申請書は以下のホームページにも掲載
<http://goikenkyu.html.xdomain.jp/>

3. 応募期間

2021 年 5 月 10 日(月)から 2021 年 6 月 30 日(水)【当日消印有効】

4. 研究助成・学術賞(田島毓堂賞)

・研究助成金(3 名程度) 総額 50 万円以内
・学術賞顕彰金 50 万円

5. 選考方法

ご提出いただいた書類に基づいて、運営委員会の審査により決定し、8 月末までに本人宛結果を通知します。

6. 提出書類送付先

〒164-0001 東京都中野区中野 3-36-16
三菱UFJ信託銀行リテール受託業務部公益信託課 田島毓堂語彙研究基金担当
Tel:0120-622372(フリーダイヤル)
(受付時間 平日 9:00~17:00 土・日・祝日等を除く)
E-mail: koueki_post@tr.mufg.jp
(メール件名には基金名を必ずご記入下さい)

以上

【添付書類】

・学術賞(田島毓堂賞)募集要項・応募申請書	1 部
・研究助成募集要項・応募申請書	1 部
・ポスター	1 部

「公益信託田島毓堂語彙研究基金」研究助成募集要項 (2021 年度実施要項)

この公益信託は、設立者である田島毓堂氏の語彙研究における思いから、言語学の中で、語彙研究（日本語・外国語）の発展を図り、もって学術の発展に寄与することを目的に設定されたものです。

2021 年度事業のひとつとして、研究助成の対象となる研究計画を下記要項にて募集いたします。『研究助成』は、語彙研究に関する優れた個人研究または共同研究に贈呈するものです。これまでの研究助成一覧については、語彙研究会のウェブサイトの「授賞の記録」に掲載されております。

http://goikenkyu.html.xdomain.jp/kikin_history.html をご覧下さい。

記

1. 応募資格

大学・大学院の教員、又は大学院博士課程(前期・後期)に在籍する学生若しくは運営委員会が認める者(国籍は問わない)で、これまでに本助成金を受給した実績のない方。

2. 応募方法

研究助成を受けようとする方は、次の各号に掲げる書類を提出して下さい。

(1) 応募申請書

* 応募申請書は以下のホームページに掲載されています。

<http://goikenkyu.html.xdomain.jp/>

(2) 応募資格を証明する書類（在職証明書、職員証（写）、在学証明書等）

- 共同申請でも可。
- 応募に当たって提出いただいた書類は一切返却いたしません。
- 前年以前と同テーマでの応募は選考対象外となります。
- 応募申請書は日本語で書かれたものに限定します。

3. 応募期間

2021 年 5 月 10 日（月）から 2021 年 6 月 30 日（水） 【当日消印有効】

4. 助成対象者の決定

助成対象者は、提出書類に基づいて、運営委員会の審査により決定します。

5. 助成対象者の発表

2021 年 8 月末までに、直接本人宛通知します。

6. 助成件数・金額

最大 3 件程度・総額 50 万円以内とし、運営委員会にて研究内容等を勘案して個々の助成対象者に対する助成金額を決定します。

【裏面へ続く】

7. 助成方法

助成対象者が指定した銀行口座に振込みます。

※助成金を委任経理とする場合、助成金による間接経費の支払いはできません。

8. 研究成果

2023 年 3 月末までに規定の研究成果報告書と会計報告書をご提出いただきます。

また、助成後 2 年以内に論文を公表していただきます。（詳細は助成対象者に通知します）

9. 申込み及び問合せ先

＜公益信託 田島毓堂語彙研究基金事務局＞

〒164-0001 東京都中野区中野 3-36-16

三菱UFJ信託銀行リテール受託業務部公益信託課

田島毓堂語彙研究基金担当

Tel : 0120-622372（フリーダイヤル）

（受付時間 平日 9:00～17:00 土・日・祝日等を除く）

E-mail: koueki_post@tr.mufg.jp

（メール件名には基金名を必ずご記入下さい）

「公益信託 田島毓堂語彙研究基金」研究助成応募申請書			
公益信託 田島毓堂語彙研究基金 受託者三菱UFJ信託銀行株式会社 殿		年 月 日	
この応募申請書および添付した資料に記載されている事項は、研究助成の助成対象者の選考等、当公益信託の運営に必要な範囲で、当公益信託の運営委員・信託管理人・委託者が取得・利用すること、また、助成が決定した場合は、氏名・所属先等の情報が主務官庁へ提出されることについて、同意の上応募します。			
(ふりがな) 氏 名	(年 月 日生)		
所属先・職名			
現住所	(〒 —) 電話() FAX()		
連絡先	(〒 —) 電話() FAX()		
e-mail アドレス			
研究課題			
助成希望 金額	万円	予算 総額	万円
研究の概要・目的・意義 (先行研究との関連についても論じて下さい)			

受託者は、個人情報保護に関する法律(平成15年5月30日法律第57号)に基づき、応募者の個人情報を、公益信託業務を遂行するために必要な範囲内に限定して利用いたします。

研究方法・計画
(課題を明らかにするための方法や研究計画を具体的に。)

研究から期待できる成果

研究経歴書

(現在までの研究テーマについて概略を記入して下さい。また、既に発表した論文があれば、その論文名・掲載誌・発表年月日を記入して下さい。)

「公益信託田島毓堂語彙研究基金」学術賞（田島毓堂賞）募集要項 （2021 年度実施要項）

この公益信託は、設立者である田島毓堂氏の語彙研究における思いから、言語学の中で、語彙研究（日本語・外国語）の発展を図り、もって学術の発展に寄与することを目的に設定されたものです。

2021 年度事業のひとつとして、学術賞（田島毓堂賞）の授賞対象となる業績を下記要項にて募集いたします。

『学術賞』は、当該期間内に公刊された語彙研究に関する特に優れた研究業績（単行本あるいは論文 1 編以上）に贈呈するものです。これまでの授賞業績一覧については、語彙研究会のウェブサイトの「授賞の記録」に掲載されております。

http://goikenkyu.html.xdomain.jp/kikin_history.html をご覧下さい。

記

1. 応募資格

大学・大学院の教員、又は大学院博士課程（前期・後期）に在籍する学生若しくは運営委員会が認める者（国籍は問わない）で、これまでに本学術賞を受賞した実績のない方。2019 年 1 月 1 日より 2021 年 5 月 7 日までに語彙研究分野で公刊した、個人（共同も可）としての業績（論文）を有すること。

2. 応募方法

学術賞を受けようとする方は、次の各号に掲げる書類を提出して下さい。

(1) 応募申請書

* 応募申請書は以下のホームページに掲載されています。

<http://goikenkyu.html.xdomain.jp/>

(2) 応募資格を証明する書類（在職証明書、職員証（写）、在学証明書等）

(3) 論文のコピー及びその要旨

* 共同論文・共同申請でも可。

* なお、複数の論文の提出を希望する場合は、主たる論文を 1 つ指定し、その他は副論文としてご提出下さい。なお、主論文、副論文ともに、要旨をご提出下さい。

- 応募に当たって提出いただいた書類は一切返却いたしません。
- 前年以前と同テーマでの応募は選考対象外となります。
- 応募申請書・論文は日本語で書かれたものに限定します。
- 自薦・他薦は問いません。他薦の場合、推薦文を添付して下さい。

3. 応募期間

2021 年 5 月 10 日（月）から 2021 年 6 月 30 日（水） 【当日消印有効】

【裏面へ続く】

4. 授賞対象者の決定

授賞対象者は、提出書類に基づいて、運営委員会の審査により決定します。

5. 授賞対象者の発表

2021 年 8 月末までに、直接本人宛通知します。

6. 顕彰金

授賞対象者に対し、顕彰金 50 万円を贈呈します。

7. 授賞式

2021 年 9 月開催予定の語彙研究会大会で授賞式を行います。

8. 申込み及び問合せ先

＜公益信託 田島毓堂語彙研究基金事務局＞

〒164-0001 東京都中野区中野 3-36-16

三菱UFJ信託銀行リテール受託業務部公益信託課

田島毓堂語彙研究基金担当

Tel : 0120-622372 (フリーダイヤル)

(受付時間 平日 9:00~17:00 土・日・祝日等を除く)

E-mail: koueki_post@tr.mufg.jp

(メール件名には基金名を必ずご記入下さい)

「公益信託 田島毓堂語彙研究基金」学術賞(田島毓堂賞)応募申請書

公益信託 田島毓堂語彙研究基金

年 月 日

受託者三菱UFJ信託銀行株式会社 殿

この応募申請書および添付した資料に記載されている事項は、学術賞の授賞対象者の選考等、当公益信託の運営に必要な範囲で、当公益信託の運営委員・信託管理人・委託者が取得・利用すること、また、授賞が決定した場合は、氏名・所属先等の情報が主務官庁へ提出されることについて、同意の上応募します。

(ふりがな) 氏 名				(年 月 日生)
所属先・職名				
現住所	(〒 —)			電話() FAX()
連絡先	(〒 —)			電話() FAX()
e-mail アドレス				

応 募 者 略 歴

年 月	事 項

受託者は、個人情報の保護に関する法律(平成15年5月30日法律第57号)に基づき、応募者の個人情報を、公益信託業務を遂行するために必要な範囲内に限定して利用いたします。

研 究 経 歴

(これまでの研究テーマなどについて簡単に)

--	--

提 出 業 績

☐ 主論文1点
 ☐ 主論文1点と副論文1点
 ☐ 主論文1点と副論文2点
 (当てはまるものに○を)

提出業績が 論文の場合 《主論文のコピー は必ず提出。副 論文の提出は任 意》	主 論 文	タイトル 誌名・巻号 掲載ページ	出版年月日
	副 論 文 1	タイトル 誌名・巻号 掲載ページ	出版年月日
	副 論 文 2	タイトル 誌名・巻号 掲載ページ	出版年月日

(学術賞)

主論文の要旨と、学術的に独創的な点(枠内に1,500字以内で記入)

(学術賞)

副論文の要旨(枠内に800字以内で記入)

2021年4月5日

各 位

公益財団法人コーセーコスメトロジー研究財団

理事長 小林 保 清

研究助成候補者ご推薦のお願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

本財団は、コスメトロジー（化粧品学）の振興を通して、国民の生活をより美しく豊かなものとするため、下記の事業を推進しております。

- (1) 自然科学や社会科学の各分野にわたり広く関わりを持つ化粧品を、総合的に体系化するための調査・研究に対する助成を行う。
- (2) 皮膚の生理機能や老化機構の解明、美容に役立つ素材の研究など、コスメトロジーに関連した生命科学、その他の分野の調査・研究に対する助成を行う。
- (3) コスメトロジーの調査・研究に携わる研究者の海外派遣や招聘に対して資金助成を行う。
- (4) コスメトロジーに関連する研究発表会、セミナー、シンポジウムなどの開催、共催に対して資金助成を行う。

このたび、2021年度コスメトロジー研究助成事業の公募内容が決定いたしましたのでご案内申し上げます。何卒、貴学、貴所の気鋭な研究者を、本研究助成にご推薦賜りますようお願い申し上げます。

敬 具

（ 同 封 書 類 ）

・2021年度コスメトロジー研究助成公募要領

1部

候補者推薦書（申請書）は、応募受付期間になりましたら当財団ホームページ
<https://www.kose-cosmetology.or.jp> にてダウンロードできます。

以 上

2021
年度

コスメトロジー研究助成

■ 公募要領 ■

KOSÉ
COSMETOLOGY
RESEARCH FOUNDATION

公益財団法人 コーセーコスメトロジー研究財団

1. 助成の趣旨

公益財団法人 コーセーコスメトロジー研究財団は、コスメトロジー（化粧品学）の進歩・発展に寄与する独創的研究への支援を行いながら、この研究領域の体系化を目指して活動を進めてまいりました。

コスメトロジーは、自然・人文・社会三科学にまたがる学際的な研究領域にあり、幅広い学問分野の研究者が集い融合することで発展していくものといえます。

本助成事業では、様々な専門分野の研究者にコスメトロジー研究への参画を呼びかけ、人々の健康や美容の増進に役立ち、美しく豊かな生活の実現への貢献が期待される研究課題に対して助成を行います。

2. 助成課題

コスメトロジー又は関連する諸分野の基礎研究や応用研究（萌芽的研究を含む）で、以下の3分野のいずれかに該当する個人若しくはグループによる研究課題を対象とします。

第1分野 素材、物性に関する分野

第2分野 生体作用、安全性に関する分野

第3分野 精神、文化に関する分野

第3分野は幅広い分野からの応募に期待しています。

感性工学、生理心理学、医療・看護・福祉関連分野、社会学、比較文化学、芸術論、マーケティング論など

3. 応募資格

(1) 日本国内の教育研究機関に所属する研究者で、下記の推薦を受けた者としてします。

① 教育機関の場合は所属長（学長又は研究科長、学部長、研究所長に相当する職位）

② ①以外の公的な研究機関・学会・団体の場合は代表者

(2) 同じ推薦者による応募数に制約はありませんが、原則として同一機関に対し1課題の助成となります。

(3) 申請者がすでに本助成を受けている場合は、その最終の研究報告書が提出されるまで、本助成への新たな応募はできません。

4. 助成金および助成期間

(1) 1件あたりの助成金額は200万円又は100万円、50万円で、採択時に選考委員会が裁定します。
本年度の助成総額は5,500万円です。

(2) 助成期間は1年又は2年。助成期間の終了日（研究報告書の提出期限）は、助成金交付日（2021年12月）から1年又は2年経過後の3月末日とします。この日以前に終了する研究計画も可とします。

(3) 助成金は、原則として所属機関が指定する口座に納付します。個人口座及び海外口座への振込はできません。

5. 応募方法

- (1) 当財団ホームページ (<https://www.kose-cosmetology.or.jp>) の助成金申請 Web システムのページに掲載した手順に沿って応募してください。申請書は日本語で作成してください。
- (2) 応募には Web システム上での登録、アップロードだけでなく、申請書一式を書面にて送付してください。その際、関連論文の添付が必要です。
- (3) 応募受付期間は、2021 年 5 月 10 日(月)～7 月 9 日(金) (消印有効) です。送付先は最終ページをご参照ください。

6. 選考方法

- (1) 当財団の選考委員会において審査し、同委員会の答申に基づいて、理事会において正式決定します。採否の結果は、2021 年 10 月中旬に申請者および推薦者にご連絡します。
- (2) 審査の状況や採否の理由についての照会には回答いたしません。また、応募書類は採否に関わらず返却いたしません。

7. 助成採択者の義務

- (1) 助成金贈呈式を、2021 年 11 月 25 日(木) に東京都内にて開催しますのでご出席ください。
- (2) 助成期間終了時 (助成期間 2 年では中間年も含む) に、財団所定の書式で使途報告書及び研究報告書をご提出いただきます。なお、最終の研究報告書は、本財団が刊行する研究報告集に掲載するとともに、財団ホームページで公表します。
- (3) 採択決定後、研究課題や登録の内容に重要な変更が生じた場合には、速やかに財団に報告してください。
- (4) 助成期間中に本財団関係者が助成採択者を訪問して、計画の進捗状況を確認させていただくことがありますのでご対応をお願いします。

8. 研究成果の取り扱い

- (1) 研究成果を外部発表する場合には、「コーセーコスメトロジー研究財団、英名：KOSÉ Cosmetology Research Foundation」の助成によることを明示してください。また、刊行物に掲載した場合には、その写しを財団に提出してください。
- (2) 研究成果に基づく特許または実用新案の出願に関して、本財団は権利を主張しません。

9. 個人情報等の取り扱い

- (1) 個人情報は選考や採否連絡など助成関連の業務に限定し使用します。
- (2) 法令等の定める場合を除き、事前に本人の同意を得ることなく個人情報を第三者に提供することはありません。
- (3) 採択された助成に関する情報 (氏名、所属、研究課題等) は、財団の事業報告書、研究報告集、ホームページ、表彰・贈呈式、記念誌等にて公表します。

コーセーコスメトロジー奨励賞

コスメトロジー研究の学術論文による成果公表を奨励し、研究成果の社会還元を促進することを目的に、コスメトロジー研究助成の成果を発表した論文を対象に、その論文実績を評価して最優秀者を表彰します。(表彰金総額 200 万円)

コーセーコスメトロジー研究財団の助成プログラム

本財団では、コスメトロジー研究に意欲的に取り組む研究者に向けて、下記の助成プログラムを実施しています。

- コスメトロジー研究助成
- 大学講座研究助成 (2021 年度は新規の公募はありません)
- 国際交流助成
- 学術集会支援助成

各プログラムの概要や応募方法は当財団ホームページをご参照ください。

申請書の提出先・連絡先

公益財団法人 コーセーコスメトロジー研究財団

〒103-0028 東京都中央区八重洲1丁目5番17号 八重洲香川ビルディング4階

TEL 03-6860-2190

FAX 03-6860-2192

E-mail office@kose-cosmetology.or.jp

<https://www.kose-cosmetology.or.jp>

◆Zoomでの説明会を実施します。
ご希望の方は下記メールまでご一報ください。

4/15(木)、4/21(水)、4/26(月)、5/11(火)
11時～12時および16時～17時

連絡先：zaidan.lotte@lotte-hd.co.jp

※上記日程・時間以外のご相談にも応じます。1名からのご参加でも結構です。

※メールアドレスを御連絡いただければ、データで公募情報をお送りいたします。

2021年4月

公益財団法人ロッテ財団

関係者各位

「食と健康」の分野における
若手研究者対象の研究助成の公募を開始します

平素よりロッテ財団の研究助成事業に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度、2022年度の研究助成公募開始にあたり、募集要項等を郵送させていただきました。

自然科学分野のみならず、マーケティングや食文化研究等、社会・人文科学系、情報科学系の
各学部・研究科の皆様にも広くご案内賜れば幸甚に存じます。

今後ともご支援、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

記

1. 研究者育成助成〈ロッテ重光学術賞〉助成：1件

(募集期間：4月1日～6月25日)

※助成者の雇用に係る費用も助成します。

助成金額	1,500万円／年 最長5年間助成 助成者の給与等・研究費、受入教員の研究費、機関管理費
------	---

2. 奨励研究助成 (A) (B) 助成：各20件程度 (募集期間：4月1日～6月4日)

	奨励研究助成 (A)	奨励研究助成 (B)
助成金額	上限300万円	上限100万円

■助成対象分野

- 食料の生産・加工・流通・保存・備蓄・廃棄に関わる技術
- 食品のマーケティング
- 食文化
- 嗜好性(おいしさ・味覚)
- 栄養
- 食品安全・衛生

【2022年度特定課題】●食の未来 ●情報科学の食・健康への活用

詳しくは「ロッテ財団」ホームページをご覧ください。 <http://www.lotte-isf.or.jp>

2021年4月1日

公益財団法人ロッテ財団
第9回（2022年度）研究助成事業
「研究者育成助成」〈ロッテ重光学術賞〉 募集要項

1. 本助成の趣旨

本助成は、「食と健康」の分野において、優れた若手研究者がわが国トップクラスの研究者として成長することを願い、それにふさわしい支援を行おうとするものであり、国内の民間助成としては新しい形態の助成制度です。助成対象者には、テニユア職に就くことを目標に、育成支援教員の下で安定した研究の場を確保しつつ、研究に必要な資金を長期にわたり助成します。

2. 本助成の特徴

- (1) 助成対象者へ生活費の支援を行い、生活基盤の安定を図ります。
- (2) 助成対象者とその育成支援の役割を担う教員(以下、「育成支援教員」)をペアで助成し、助成対象者に対する組織内での研究体制をサポートします。(「9.育成支援教員の役割」参照)
- (3) 助成対象者および育成支援教員に対し、最長5年間の助成を行います。
- (4) 当助成研究課題について、助成終了後の論文作成、掲載、発表等にかかる費用についても付加的支援を行います。

3. 助成金額・期間・件数

- (1) 助成金額・期間
- | | |
|-------------|---|
| 1 件あたりの助成金額 | 1,500 万円／年
(内訳については「10.助成金の支払いおよび使途」を参照) |
| 助成期間 | 2022 年 4 月から最長 2027 年 3 月までの 5 年間 |
- (2) 年間助成件数
- | |
|-----|
| 1 件 |
|-----|

4. 助成対象分野

本助成では、「食と健康」に関する研究において、下記の分野を助成対象とします。
自然科学や人文・社会科学など、幅広い分野からのご応募をお待ちしています。

2022 年度特定課題として、「⑧食の未来」「⑨情報科学の食・健康への活用」の 2 課題を設定していますので、併せてご確認ください。

①食料の生産・加工・流通・保存・備蓄・廃棄に関わる技術

②食品のマーケティング

③食文化

④嗜好性（おいしさ・味覚）

⑤栄養・機能性

⑥食品安全・衛生

⑦その他分野横断的領域

【2022 年度特定課題】

⑧食の未来

⑨情報科学の食・健康への活用

☆ 本研究助成事業は、社会課題の解決を通じて「SDGs（持続可能な開発目標）」の達成に貢献していくことを目標の一つとしていることにより、申請書内に申請課題研究における SDGs の取り組みについての記載欄を設けております。

なお、SDGs に関する詳細は、下記の外務省ホームページ

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

をご覧ください。

〈分野別課題の参考例〉

※下記はあくまで参考例です。この例にとらわれず、独創的、先端的テーマを歓迎します。

- ①-1 健康の増進を目指す農・水・畜産食品開発の基盤となる新技術の研究
- ①-2 栄養性・嗜好性を損なわない新しい食品流通・保護・加工法の開発研究
- ①-3 副産物の活用に関する新技術の研究

- ②-1 食と健康を志向したマーケティングないしビジネスモデルの研究
- ②-2 食品の流通の研究
- ②-3 食と健康に関わる消費者行動の研究

- ③-1 菓子を含めた嗜好食品に関する食文化・伝統的技術を検証する研究
- ③-2 食と健康の消費文化変容に関する研究
- ③-3 食と健康に関する規制の現状と望ましい政策提言

- ④-1 五感の末梢・中枢における感知・認知機構の解析・応用研究
- ④-2 嗜好の変化に関わる因子・機序の研究
- ④-3 咀嚼・嚥下に関わる食品物性の解析・応用研究

- ⑤-1 栄養素・機能性食品成分の疾病予防効果を事前予知する研究
- ⑤-2 加齢と栄養の関わりや運動と栄養の関わりを検証する研究
- ⑤-3 消化管・膵臓・脳などに発現する味覚受容体の存在意義の解析研究

- ⑥-1 食の安全と衛生の評価法の開発研究
- ⑥-2 食品成分の摂取不足のリスクと摂取過剰のリスクに関する研究
- ⑥-3 食の安全・安心の社会的関心の高まりの変遷に関する調査研究

- ⑧-1 培養肉など新食材に関する研究
- ⑧-2 新食感を生み出すなど新調理法に関する研究
- ⑧-3 新しい社会のあり方を創造する食の提供方法に関する研究
- ⑧-4 環境に配慮した食品包装素材・技術に関する研究

- ⑨-1 食と健康の分野での数理・データサイエンス活用研究
- ⑨-2 食や腸内細菌に関する数理・データサイエンス活用研究
- ⑨-3 食・料理と健康に関する情報通信技術活用研究

5. 応募資格

- (1) 本年 4 月 1 日時点で原則※40 歳以下の博士号取得者。国籍は問いませんが、本人が日本語で申請書を記載できる方。
※ 出産や育休など、やむを得ぬ事情で研究を中断した期間がある場合は、申請書内「申請者の略歴」に記載してください（任意）。
- (2) 申請時点での所属先は国内・海外を問いませんが、助成開始後の受入研究機関は国内の大学・短期大学・高等専門学校および公的研究機関のみとします。海外の研究機関から国内に戻る目的での当助成への応募も可能です。
- (3) 申請時において、助成開始後の受入研究機関の機関長(学部長・研究科長・研究所長等)の承認および育成支援教員の推薦が得られ、かつ育成支援教員の下で安定した研究の場を確保し、独自のテーマで主体性を保ちつつ研究を遂行できる方。
- (4) 助成開始当日までに、受入研究機関より有期のポスト（称号）を付与され、機関内での研究の資格と環境を獲得できる方。
- (5) 助成開始後、当財団助成金と受入研究機関・科研費等からの給与・研究奨励金等の二重給与とならない方。
- (6) 科研費等の大型助成を申請時点で受けている場合、研究課題名の重複や、エフォート管理上、研究費の過度の集中が認められるときには、不採択となることがあります。
- (7) 育成支援教員の所属する講座と特定企業との結びつきが極めて強い等、研究の独自性の担保が難しいと懸念される場合には、不採択となることがあります。
- (8) 当財団の「奨励研究助成」と同時に応募または助成を受けることはできません。

なお、2021 年 9 月 22 日（水）の面接審査および 2021 年 12 月 16 日（木）の贈呈式に、申請者本人および育成支援教員本人が出席できる場合のみご応募ください。

6. 応募方法

申請書類の郵送は不要です。Web 上でのみ申請手続きを行ってください。

(1) Web 申請

ロッテ財団ホームページ>「研究助成事業」>「申請はこちらから」より、「マイページ」にログインし、登録・基本情報の入力、及び申請書類のアップロードを行ってください。

「申請はこちらから」：<http://www.lotte-isf.or.jp/method.html>

(2) 応募提出物一覧

- 【育成 1】研究概要
- 【育成 2】申請書
- 【育成 3】育成支援教員 推薦書
- 論文 5 報まで（【育成 2】[9]「業績リスト」中①～⑤までのもの）

(3) 申請書類記入上の留意点

- ① 申請書類は日本語で本人が記入してください。
- ② 申請書類の記入方法については、書類上に記載の注意事項を必ずご確認ください。
- ③ 申請時に入力するエントリーシートと申請書との情報に相違がないか、特に再申請の方は十分ご確認ください。（所属機関、職位等）

※募集締め切り後の申請書類記載内容の変更および論文の差し替え等はありません。

7. 応募締め切り

2021 年 6 月 25 日(金) 24 時まで Web での登録完了のこと

8. 選考日程・結果通知

- (1) 2021 年 8 月 26 日(木)開催の選考委員会にて書面審査を行い、結果を 8 月 30 日(月)以降に通知します。
- (2) 書面審査通過者には、9 月 22 日(水)に、申請者と育成支援教員に面接を受けていただきます（会場開催の場合、交通費・宿泊費を支給します）。
- (3) 面接の可否結果については、10 月 7 日(木)開催予定の理事会において承認後、10 月 8 日(金)以降にメールまたは文書で通知します。

なお、採否の理由についての照会には回答いたしかねます。

9. 育成支援教員の役割

- (1) 育成支援教員には、助成対象者が助成終了時までにはテニユア職が得られるよう、国際的にトップレベルの研究者として成長することを目指し、積極的な支援を行う役割があります。
- (2) 育成支援教員には、助成対象者の研究の独自性を最大限尊重していただきます。
- (3) 育成支援教員には、助成対象者を研究室に受け入れ、研究活動ができるスペースの確保等、研究に専念できる環境づくりに協力していただきます。
- (4) 育成支援教員には、助成対象者が研究機器等を使用することを可能な限り認めるなど、研究の推進に支障のないよう心がけていただきます。

10. 助成金の支払いおよび使途

- (1) 助成金は、助成開始後の受入研究機関に対して支払われます。内訳例は次のとおりです。
(例)

① 助成対象者の生活費相当額	約 700 万円	※1
② 助成対象者の研究費	約 350 万円	※1
③ 育成支援教員の研究費	300 万円	※2
④ 受入研究機関の管理費	150 万円	
合計金額		1,500 万円

※1 ①および②の配分については、受入研究機関の定める標準給与額を参考に、受入研究機関と財団とで協議の上決定します。生活費相当額には、雇用側と本人に生じる社会保険料、所得税、諸手当等も含まれます。

※2 育成支援教員に対しては、助成対象者の自立した研究体制および環境の整備・充実に努めていただくため、年間 300 万円の研究費（③）が支払われます。

なお、②、③の研究費については年次ごとの会計報告が必要です。

- (2) 研究費の使途は、助成対象者については研究に直接必要な経費とします(設備備品類、消耗品費、旅費等)。一方、育成支援教員については、教員自身の判断で、助成対象者の環境整備を含む育成支援費、およびそれに関連するサポートを含む育成支援教員の研究費とします。

ただし、以下の費用は対象外とします。

- 建物等の施設に関する経費(直接経費により購入した物品を導入することにより必要となる軽微な据付等のための経費を除く)
- 助成期間中に発生した事故・災害の処理のための経費
- 助成対象者が所属する組織のオーバーヘッド
- 助成対象者および育成支援教員本人への人件費・謝金

11. 助成金の贈呈

(1) 贈呈式

2021 年 12 月 16 日（木）に実施される贈呈式には、助成対象者本人と育成支援教員本人に必ず出席していただきます。（欠席の場合は、採択を取り消すこともあります）

(2) 助成金振込時期・振込先

2022 年 3 月末までに、受入研究機関の指定口座に振込みます。助成対象者の個人口座への振込はできません。

12. 助成決定後の遵守事項

助成決定後、助成対象者・育成支援教員には、主に以下の事項を遵守していただきます。

- (1) 研究計画書および予算書に基づく研究活動
- (2) 年次報告書および最終研究報告書の期限内提出
- (3) 助成 3 年目の中間報告会で研究の進捗状況やテニユア獲得に向けての状況報告
- (4) 助成終了時の最終報告会での研究成果発表

13. 個人情報の取扱いに関する事項

- (1) 当財団の研究助成への応募にかかわる全ての個人情報は、選考に関する手続き(審査および当財団からの連絡)のみに使用します。
- (2) 助成決定後、当財団に「個人情報の取扱いに関する同意書」を提出し、併せて主として当財団の刊行物とホームページ等に以下の情報を公開することに同意していただきます。
 - ① 助成対象者・育成支援教員の氏名、所属機関名、職位、顔写真
 - ② 研究課題名
 - ③ 申請研究の内容
 - ④ 研究期間
 - ⑤ 助成金額
 - ⑥ 研究成果報告
 - ⑦ 財団主催の行事に参加した際、財団で撮影した写真

14. 申請に関する問い合わせ先

※電話でのお問い合わせは受け付けていません。必ずメールをお願いします。

※お問い合わせの前に、ホームページ上の「申請 FAQ」をご確認ください。

公益財団法人ロッテ財団 研究助成担当 宛

メールアドレス：zaidan.lotte@lotte-hd.co.jp

〈ご注意ください〉

上記アドレスにメール送信の際には、必ず文面に所属機関、ご氏名、メールアドレスを記載してください。情報が不足している場合はお問い合わせに応じかねる場合があります。

以上

2021 年 4 月 1 日

公益財団法人ロッテ財団
第 9 回（2022 年度）研究助成事業
「奨励研究助成（A）・（B）」 募集要項

1. 本助成の趣旨

本助成は、将来、国際的に活躍する可能性を秘めた、優秀で志の高い若手研究者を対象とした助成制度です。自然科学から人文・社会科学にわたる「食と健康」の分野において、独創的・先端的な研究に専念する優れた若手研究者を助成します。

2. 本助成の特徴

- (1) 研究形態の多様性を考慮し、「奨励研究助成（A）」（助成額上限 300 万円）と、「奨励研究助成（B）」（助成額上限 100 万円）の 2 区分の応募枠を設定しています。
- (2) 自然科学、人文・社会科学の広域科学分野からの応募が可能です。
- (3) 当助成研究課題について、助成終了後の論文作成、掲載、発表等にかかる費用についても付加的支援を行います。

3. 助成金額・研究期間・助成件数

	奨励研究助成（A）	奨励研究助成（B）
一件あたりの助成金額	上限 300 万円	上限 100 万円
研究期間	1 年から 3 年まで選択可能	1 年
年間助成件数	20 件程度	20 件程度

4. 助成対象分野

本助成では、「食と健康」に関する研究において、下記の分野を助成対象とします。
自然科学や人文・社会科学など、幅広い分野からのご応募をお待ちしています。

2022 年度特定課題として、「⑧食の未来」「⑨情報科学の食・健康への活用」の 2 課題を設定していますので、併せてご確認ください。

①食料の生産・加工・流通・保存・備蓄・廃棄に関わる技術

②食品のマーケティング

③食文化

④嗜好性（おいしさ・味覚）

⑤栄養・機能性

⑥食品安全・衛生

⑦その他分野横断的領域

【2022 年度特定課題】

⑧食の未来

⑨情報科学の食・健康への活用

☆ 本研究助成事業は、社会課題の解決を通じて「SDGs（持続可能な開発目標）」の達成に貢献していくことを目標の一つとしていることにより、申請書内に申請課題研究における SDGs の取り組みについての記載欄を設けております。
なお、SDGs に関する詳細は、下記の外務省ホームページ
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>
をご覧ください。

〈分野別課題の参考例〉

※下記はあくまで参考例です。この例にとらわれず、独創的、先端的テーマを歓迎します。

- ①-1 健康の増進を目指す農・水・畜産食品開発の基盤となる新技術の研究
- ①-2 栄養性・嗜好性を損なわない新しい食品流通・保護・加工法の開発研究
- ①-3 副産物の活用に関する新技術の研究

- ②-1 食と健康を志向したマーケティングないしビジネスモデルの研究
- ②-2 食品の流通の研究
- ②-3 食と健康に関わる消費者行動の研究

- ③-1 菓子を含めた嗜好食品に関する食文化・伝統的技術を検証する研究
- ③-2 食と健康の消費文化変容に関する研究
- ③-3 食と健康に関する規制の現状と望ましい政策提言

- ④-1 五感の末梢・中枢における感知・認知機構の解析・応用研究
- ④-2 嗜好の変化に関わる因子・機序の研究
- ④-3 咀嚼・嚥下に関わる食品物性の解析・応用研究

- ⑤-1 栄養素・機能性食品成分の疾病予防効果を事前予知する研究
- ⑤-2 加齢と栄養の関わりや運動と栄養の関わりを検証する研究
- ⑤-3 消化管・脾臓・脳などに発現する味覚受容体の存在意義の解析研究

- ⑥-1 食の安全と衛生の評価法の開発研究
- ⑥-2 食品成分の摂取不足のリスクと摂取過剰のリスクに関する研究
- ⑥-3 食の安全・安心の社会的関心の高まりの変遷に関する調査研究

- ⑧-1 培養肉など新食材に関する研究
- ⑧-2 新食感を生み出すなど新調理法に関する研究
- ⑧-3 新しい社会のあり方を創造する食の提供方法に関する研究
- ⑧-4 環境に配慮した食品包装素材・技術に関する研究

- ⑨-1 食と健康の分野での数理・データサイエンス活用研究
- ⑨-2 食や腸内細菌に関する数理・データサイエンス活用研究
- ⑨-3 食・料理と健康に関する情報通信技術活用研究

5. 応募資格

- (1) 本年4月1日時点で原則※40歳以下の方。国籍は問いませんが、本人が日本語で申請書を記載できる方。
※ 出産や育休など、やむを得ぬ事情で研究を中断した期間がある場合は、申請書内「申請者の略歴」に記載してください（任意）。
- (2) 申請時点で、国内の大学・短期大学・高等専門学校および公的研究機関（以下、「所属機関」）に所属する研究者で、助成期間中に国内の所属機関において助成金の機関管理が可能な方。（提出時点で博士課程など学生の方は応募できません）
- (3) 助成申請にあたり、所属機関長（学部長・研究科長・研究所長等）の承認を得られる方。
- (4) 科研費等の大型助成を申請時点で受けている場合、研究課題名の重複や、エフォート管理上、研究費の過度の集中が認められるときには、不採択となることがあります。
- (5) 当財団の助成（「研究者育成助成」「奨励研究（A）」「奨励研究（B）」）について、重複しての応募または助成を受けることはできません。

なお、2021年12月16日（木）の贈呈式には、病気や海外留学中等やむを得ない事情を除いて、申請者ご本人に必ず出席していただきます。

6. 応募方法

申請書類の郵送は不要です。Web上でのみ申請手続きを行ってください。

(1) Web 申請

ロッテ財団ホームページ>「研究助成事業」>「申請はこちらから」より、「マイページ」にログインし、登録・基本情報の入力、及び申請書類のアップロードを行ってください。

「申請はこちらから」：<http://www.lotte-isf.or.jp/method.html>

(2) 応募提出物一覧

- 【奨励1】研究概要
- 【奨励2】申請書
- 論文 2報まで（【奨励2】[9]「業績リスト」中①、②のもの）

(3) 申請書類記入上の留意点

- ① 申請書類は日本語で本人が記入してください。
- ② 申請書類の記入方法については、書類上に記載の注意事項を必ずご確認ください。
- ③ 申請時に入力するエントリーシートと申請書との情報に相違がないか、特に再申請の方は十分ご確認ください。（所属機関、職位、研究希望期間、希望金額等）

※募集締め切り後の申請書類記載内容の変更および論文の差し替え等はありません。

7. 応募締め切り

2021 年 6 月 4 日(金) 24 時まで Web での登録完了のこと

8. 選考日程・結果通知

2021 年 8 月 26 日(木)開催予定の選考委員会にて書面審査を行い、10 月 7 日(木)開催予定の理事会において助成対象者が承認されます。

合否結果については、10 月 8 日（金）以降にメールまたは文書で通知します。

なお、採否の理由についての照会には回答いたしかねます。

9. 助成金の使途

助成金の使途は、助成対象者本人のみの研究に直接必要な経費とします（設備備品類、消耗品費、旅費等）。

ただし、以下の費用は対象外とします。

- 建物等の施設に関する経費(直接経費により購入した物品を導入することにより必要となる軽微な据付等のための経費を除く)
- 助成期間中に発生した事故・災害の処理のための経費
- 助成対象者への人件費・謝金
- 助成対象者が所属する組織のオーバーヘッド

10. 助成金の贈呈

(1) 贈呈式

2021 年 12 月 16 日（木）に実施される贈呈式には、助成対象者本人に出席していただきます。

(2) 助成金振込時期・振込先

2022 年 3 月末までに、助成対象者の所属機関の指定口座に振込みます。

助成対象者の個人口座への振込はできません。

11. 助成決定後の遵守事項

助成決定後、助成対象者には、主に以下の事項を遵守していただきます。

- (1) 研究計画書および予算書に基づく研究活動
- (2) 年次報告書および最終研究報告書の期限内提出
- (3) 助成終了時の研究報告会での発表

12. 個人情報の取扱いに関する事項

- (1) 当財団の研究助成への応募にかかわる全ての個人情報は、選考に関する手続き(審査および当財団からの連絡)のみに使用します。
- (2) 助成決定後、当財団に「個人情報の取扱いに関する同意書」を提出し、併せて主として当財団の刊行物とホームページ等に以下の情報を公開することに同意していただきます。
 - ① 助成対象者の氏名、所属機関名、職位、顔写真
 - ② 研究課題名
 - ③ 申請研究の内容
 - ④ 研究期間
 - ⑤ 助成金額
 - ⑥ 研究成果報告
 - ⑦ 財団主催の行事に参加した際、財団で撮影した写真

13. 申請に関する問い合わせ先

※電話でのお問い合わせは受け付けていません。必ずメールでお願いします。

※お問い合わせの前に、ホームページ上の「申請 FAQ」をご確認ください。

公益財団法人ロッテ財団 研究助成担当 宛

メールアドレス：zaidan.lotte@lotte-hd.co.jp

〈ご注意ください〉

上記アドレスにメール送信の際には、必ず文面に所属機関、ご氏名、メールアドレスを記載してください。情報が不足している場合はお問い合わせに応じかねる場合があります。

以上



食べることは、生きること

やずや食と健康研究所

助成研究募集のお知らせ

「やずや 食と健康研究所」では、食品・食物・食生活習慣と健康に関する研究、および、社会活動に対し最大 100 万円の助成をしております。

募集期間

2021 年 6 月 15 日(火)～7 月 15 日(木) 17 時締切(時間厳守)

募集部門

「チャレンジ部門」および「キャリアアップ部門」

(詳細は右記および別紙参照)

応募方法

「やずや 食と健康研究所」ホームページ内の助成研究募集要項より研究計画調書をダウンロードし、必要事項をご記入のうえ、申込みフォームからご応募ください。

※なお、「チャレンジ部門」と「キャリアアップ部門」の併願は認めておりませんのでご了承ください。

やずや 食と健康研究所 ホームページ

<http://www.yazuken.jp>



※スマートフォンのみ対応

お問い合わせ

やずや 食と健康研究所 事務局 (担当：中村、中、上田、大場)

・TEL : 092-533-1520 ・E-mail : info@yazuken.jp

月～金 9:00～18:00 (土・日・祝休)

※電話番号はお間違いないようお願いいたします。

あなたの夢を応援します！

「成功率の高い助成研究申請書の書き方」を
公開中！！

presented by

東京大学 佐々木 敏 教授

〈やずや食と健康研究所 評議委員〉



資料はこちら



※無断転載・複製・配布行為はご遠慮ください。

\\ 初応募のチャレンジ也大歓迎! //

チャレンジ部門

助教・助手・講師・大学院生 大歓迎

助成対象は、**35歳未満**の研究者、大学院生、研究グループ。

資格・役職は問いません。

研究経験が浅く、新しい研究にチャレンジしたいと考え、日本語でのコミュニケーションが可能であることを条件とします。

最大助成金額は**50万円**です。

チャレンジ部門は、将来研究者を目指す若手の育成・助成を目指して設立しました。そのため、期待できる成果のみならず、独創性および熱意のある萌芽的研究を主に評価します。



キャリアアップ部門

助教・講師・准教授 大歓迎

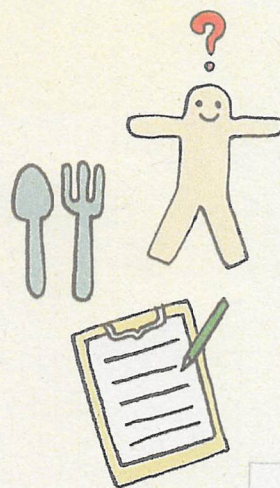
さまざまな食品・食物・食生活習慣と健康との関わりに焦点を当てた研究を募集します。

助成対象は、**50歳未満**の研究者、研究グループ。

同時期に他の機関から助成を受けていないこと、日本語でのコミュニケーションが可能であることを条件とします。

50万円、100万円のうち、研究計画に沿った希望助成金額を明記して応募してください。

※ただし、同一の研究テーマにて複数の助成への応募は受け付けません。



やずや 食と健康研究所とは

私どもは、株式会社やずやが運営する研究助成機関で、研究を通して「食べること・生きること」の意味をより明確にし、健やかな体づくり・心づくりに貢献することを理念に、2007年に設立しました。

以来、理念に合致する研究への助成をメインに活動しております。

数多くのご応募
お待ちしております!





▶ トップ

▶ 研究所の理念

▶ 研究所概要

▶ 活動内容

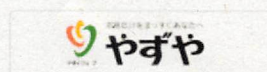
▶ 助成研究

- ▶ 助成研究募集要項
- ▶ 助成研究評議委員
- ▶ 助成方針
- ▶ 2007年度助成研究
- ▶ 2008年度助成研究
- ▶ 2009年度助成研究
- ▶ 2010年度助成研究
- ▶ 2011年度助成研究
- ▶ 2012年度助成研究
- ▶ 2013年度助成研究
- ▶ 2014年度助成研究

▶ 定期調査

▶ お問い合わせ

▶ 研究者の皆様のご個人情報
保護と取り扱いについて



助成研究募集要項(2021年度)

RECRUITMENT INFORMATION

	チャレンジ部門	キャリアアップ部門
各部門について	研究者を志す若手を増やし育成するためには、同時に優秀な指導者を支える仕組みが必要であると考えた。 指導者主体の研究を手助けするのではなく、優秀な指導者のもと、若手研究者が自ら適切な計画を立て遂行する。これにより、若手研究者が意義のある研究を行うことができる。 さらに、このチャレンジ部門では、指導者に指導料を支給することで若手研究者育成に対するモチベーションと責任感を高めることもめざす。	研究は論文文化して世に出すことで、意義を果たすことができる。 このキャリアアップ部門では、研究者のさらなるスキルアップを目的とし、有意義な研究を計画・遂行することはもちろん、論文投稿を原則必須とする。
応募資格	■応募者 45歳未満(応募申込期限:2021年7月15日時点)の者。資格・役職は問わない。 研究経験が浅く、新しい研究にチャレンジしたいと考えている若手研究者。 (例)助教、助手、講師、大学院生。現場で働きながら研究する管理栄養士などの実務家。 【その他】 報告・論文作成など日本語でのコミュニケーションが可能なことを条件とする。 また、チャレンジ部門は将来研究者を目指す若手の育成・助成を目指すものである。そのため、最終的に論文投稿を推奨する。 ■指導者 若手研究者が研究を円滑に計画・遂行できるよう、直接、適切な指導ができる研究者。 年齢、役職、助成経験等は問わない。 なお、応募者と異なる所属でも構わない。	■応募者 50歳未満(応募申込期限:2021年7月15日時点)の者。 論文執筆の経験があり、さらなるキャリアアップを目指す中堅研究者。 (例)講師、助教、准教授など。 【その他】 報告・論文作成など日本語でのコミュニケーションが可能なことを条件とする。 また、最終的に論文投稿を原則とする。
研究テーマ	大テーマ:「食と健康」 小テーマ:①「食の安全」 ②「食と予防医療」 ③「食と運動」 ④「食と生活」 ⑤「食と社会」 ⑥「食と食育」 ⑦「食と文化」 ⑧「食と健康にかかわる歴史」 ⑨「その他」 ■実際の生活の中で食品・食物・食生活と健康との関係を明らかにする研究を募集する。なお、「ヒトを対象とした研究」が望ましい。 ■物質研究(食品中の特定物質など)、分子生物学的・化学的テーマを主とする研究に関しては、対象外とする。 ■食品・商品開発のための助成は、原則行わない。 ■期待できる成果のみならず、独創性および熱意のある萌芽的研究を主に評価し、助成対象を決定する。	
応募に際しての注意事項	■研究は応募者が主体となって進めることを条件とする。 ■チャレンジ部門は指導者1名を必須とする。 ■当研究所ホームページ内で公開している記入例(研究計画書【書き方のコツ】)応募用紙の書き方・ポイント)を参照すること。	

	■同一の研究テーマにて、複数の応募は受け付けない。 ■同時期(2021年12月～)に同テーマの研究で他機関から助成を受ける場合は応募不可。 ■申告に虚偽があった場合には、助成金の返還を求める場合がある。 ■当研究所が要求する研究業績とは『既に発表された論文』のことであり、査読や教科書等への研究業績の一部記載、および学会発表等は含まないものとする。 ■研究テーマと研究内容とが著しく乖離したものや書類に不備があるものについては、審査されないで注意すること。 ■研究費の一部を間接経費として配分することは原則認めておりません。	
応募方法	応募用紙ダウンロード (109.5 KB)	応募用紙ダウンロード (96.5 KB)
募集期間	2021年6月15日(火)～7月15日(木)(17時必着締切)	
結果発表	2021年11月初旬	
助成研究期間	2021年12月初旬より1年間、2年間の助成年限より選択する。 ただし、助成研究期間とは、すべての研究参加者データの解析を終了させる期間を意味する。	
助成費用	最大50万円・最大2年を上限とする。 ※助成金の使用用途について研究計画調書から変更が生じる場合は、事前申告のうえ許可のあった項目のみに助成金を使用できるものとする。 【指導者への指導料について】 一律5万円を助成費とは別に助成開始時に支給する。	最大2年を上限とし、(1) 50万円以下 (2) 51～100万円 のうち、該当する希望助成金額の番号 [(1)～(2)] を明記の上、応募すること。 ※助成金の使用用途について研究計画調書から変更が生じる場合は、事前申告のうえ許可のあった項目のみに助成金を使用できるものとする。
応募方法	「研究者の皆様の個人情報保護と取り扱いについて」に同意後、表示される入力画面に必要事項を入力の上、研究計画調書をpdf形式にて添付すること。	
成果報告	◇助成研究成果の当研究所への報告 研究結果は、助成期間終了の翌年1月中旬までに当研究所指定の報告用紙で提出すること。 ※複数年での助成が採択された場合、各年毎に指定の用紙にて中間報告書を提出すること。 ◇助成研究成果の発表 論文発表および学会などにおける研究成果の発表に際しては、「やずや食と健康研究所」の助成を受けた旨を記載すること。なお、助成終了後に提出された報告書については、ホームページ内で発表を行う。	
応募はこちら	2021年度の応募期間は6月15日～7月15日です。 期間になりましたらこちらに応募ボタンが表示されます。 ※ページが更新されない場合はキーボードの「F5」ボタンで更新をお願いします。	



第6回 JLPP翻訳コンクール

[▶ English](#)[▶ Spanish](#)

第6回翻訳者育成事業（翻訳コンクール）実施要項

第6回JLPP翻訳コンクールを下記の通り実施いたします。

過去に開催されたJLPP翻訳コンクールの受賞者達は、翻訳家として世界各国で活躍しています。日本現代文学作品の翻訳家を目指す方々の応募をお待ちしています。

1. 目的

我が国の優れた文学作品を翻訳して世界に発信し文学水準の一層の向上を図るとともに、将来を担う翻訳家の育成等を目的とします。

2. 応募資格

国籍、年齢は問いません。ただし、本事業の主旨が、翻訳家を目指す者の育成であることから、翻訳作品の単行本（共訳を含む）の出版経験を有する者は応募できません。なお、雑誌・アンソロジー等での掲載経験は可とします。

3. 言語及び翻訳点数

英語またはスペイン語

小説部門、評論・エッセイ部門の各課題作品 合計2点を翻訳

4. 課題作品

(1) 小説部門

鹿島田真希 著「波打ち際まで」

(2) 評論・エッセイ部門

向田邦子 著「お辞儀」

課題作品は、以下からダウンロードしてください。

鹿島田真希 著「波打ち際まで」

向田邦子 著「お辞儀」

希望者には冊子を郵送しますので、下記まで問い合わせてください。

<https://www.jlpp.go.jp/jp/inquiry/index.php>

5. 応募期間及び応募方法

(1) 応募期間

2021年6月1日（火）～7月31日（土）（日本時間）

(2) 応募方法

ホームページ経由での伝送による応募

JLPPホームページ内の「第6回JLPP翻訳コンクール」のバナーから、「応募専用ページ」のバナーをクリックすると、応募手順が示されます。詳細な手順や制約については、この応募専用ページを参照してください。この応募専用ページは2021年6月1日に開設します。尚、Eメールによる添付・送信等は不可とします。

※上記応募方法以外の方法で提出された応募は受け付けません。

※応募原稿データは、A4サイズ又はレターサイズ／縦長、横書き、32行／1枚、文字は12ポイント、フォントはTimes New Roman、左右に1.5cm以上の余白で作成し、総ページ数及び通し番号を記入してください。

上記の方法で作成したものを、PDFデータに変換してください。尚、PDF変換による、誤った文字の変化は応募者側で確認、修正してください。

※原稿には翻訳者の氏名を記入しないでください。

※原則的として提出物に不備があった場合には受け付けませんが、やむを得ない事情であると認められる場合は個別に対応します。

6. 審査方法

(1) 予備審査を実施し、通過者の作品を審査委員が出席する審査会議において審査し、受賞者を決定します。

(2) 最優秀賞は、特に優れた翻訳を行った翻訳家（個人）を対象とするもので、各言語1名以内を原則とします。

(3) 優秀賞は、優れた翻訳を行った翻訳家（個人）を対象とするもので、各言語2名以内を原則とします。

(4) 奨励賞は、将来が期待される翻訳家（個人）を対象とするもので、最優秀賞又は優秀賞の対象者が上限に達しない場合であつ

て、審査委員会において特に推薦があったときに、最優秀賞又は優秀賞の対象人数の範囲内において決定します。
(5)本コンクールで、過去に最優秀賞受賞した者は、原則として賞の対象となりません。

7. 審査結果の公表等

- (1) 審査結果は、受賞者を除き個別の連絡をいたしません。2022年1月末日に最優秀賞及び優秀賞の受賞者をホームページで公開し、それを以って通知とします。
- (2) 最優秀賞及び優秀賞の受賞者には、賞金（最優秀賞100万円、優秀賞25万円）、賞状及び賞牌を授与します。
- (3) 受賞者には2022年1月末日の発表前に直接、結果を通知します。またホームページにおいて、受賞者のプロフィール、審査評を掲載します。
- (4) 受賞者は、JLPPの企画するワークショップなどの翻訳者育成事業等プログラムに招待します。

8. 審査委員（敬称略、五十音順）

【英語部門】

井上 健（比較文学者、東京大学名誉教授）

Michael Emmerich（翻訳家、日本文学研究者、カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授）

Stephen Snyder（翻訳家、日本文学研究者、ミドルベリー大学教授）

Janine Beichman（翻訳家、日本文学研究者、大東文化大学名誉教授）

【スペイン語部門】

斎藤文子（スペイン語文学研究者、東京大学大学院総合文化研究科教授）

野谷文昭（ラテンアメリカ文学研究者、翻訳家、東京大学名誉教授）

Alfredo López-Pasarín（日本文学研究者、早稲田大学政治経済学術院教授）

柳原孝敦（スペイン語文学研究者、翻訳家、東京大学大学院人文社会系研究科教授）

Isami Romero（翻訳家、帯広畜産大学人間科学研究部門講師）

文化庁

ご利用規約

プライバシーポリシー

サイトマップ

©2010 JLPP事務局 / 文化庁 All Rights Reserved.

6^a Edición del 6th JLPP Concurso Internacional de Traducción de Competición del JLPP

「波打ち際まで」
鹿島田真希
「お辞儀」
向田邦子

第6回 JLPP 翻訳 コンクール

JLPP(現代日本文学の
翻訳・普及事業、主催・文化庁)では、
日本の現代文芸作品の
優れた翻訳家を発掘・育成するため、
翻訳コンクールを開催します。

応募資格

国籍、年齢は問いません。
ただし、翻訳作品の単行本(共訳含む)の
出版経験のある人は応募できません。

応募期間

2021年6月1日(火)～
2021年7月31日(土)

入賞者発表 2022年1月

翻訳課題作品

小説部門

「波打ち際まで」鹿島田真希

評論・エッセイ部門

「お辞儀」向田邦子

翻訳点数

小説部門、評論・エッセイ部門、
両部門の合計2点

翻訳言語 英語又はスペイン語

賞 最優秀賞／各言語1名 各100万円
優秀賞／各言語2名 各25万円
JLPPの企画するワークショップなどの
翻訳者育成事業プログラムに招待。

審査委員(五十音順)

英語部門

井上 健

(比較文学者、東京大学名誉教授)

Michael Emmerich

(日本文学研究者、
カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授)

Stephen Snyder

(日本文学研究者、ミドルベリー大学教授)

Janine Beichman

(日本文学研究者、大東文化大学名誉教授)

スペイン語部門

斎藤文子

(東京大学大学院総合文化研究科教授)

野谷文昭

(ラテンアメリカ文学研究者、東京大学名誉教授)

Alfredo López Pasarin

(早稲田大学政治経済学術院教授)

柳原孝敦

(東京大学大学院人文社会系研究科教授)

Isami Romero

(帯広畜産大学人間科学研究部門講師)

応募方法

応募方法の詳細については、
JLPPのホームページをご覧ください。

<https://www.jlpp.go.jp>

問合せ先

JLPP事務局 e-mail: jlpp_office@jlpp.go.jp

第34回

和辻哲郎文化賞

募集要項



姫路市

趣 旨

姫路が生んだ哲学者和辻哲郎（明治22年～昭和35年）の幅広い業績を顕彰し、あわせて研究者の育成と学術、文化の推進に資するため、昭和63年度に姫路市が創設しました。

一般部門は、和辻哲郎が文学、歴史、芸術などさまざまな領域において横断的かつユニークな著作を世に問い、広範な読者に訴えかけたスケールの大きな学者であったことに鑑み、文化一般におけるすぐれた著作に与えられます。

学術部門は、和辻哲郎が専門とした哲学、倫理学、宗教、思想、比較文化といった領域での学術的水準を備えた、すぐれた研究に与えられます。

選考委員

〔一般部門〕	阿刀田	高（作家）
	辻 原	登（作家）
〔学術部門〕	山 内 昌 之	（東京大学名誉教授）
	野 家 啓 一	（東北大学名誉教授）
	関 根 清 三	（東京大学名誉教授）
	黒 住 真	（東京大学名誉教授）

賞

正 賞 蒔絵源氏絵千姫羽子板
副 賞 100万円

対 象

〔一般部門〕 令和2年（2020年）9月1日から令和3年（2021年）8月31日までに発刊された（復刊は除く）著作物（単行本）の中で、日本文化、伝統文化、風土と人間生活との関連等に関するもので国際的普遍性、斬新な視点及び深い思索性のある評論。

〔学術部門〕 令和2年（2020年）9月1日から令和3年（2021年）8月31日までに発刊された（復刊は除く）著作物（単行本）の中で、哲学、倫理学、宗教、思想、比較文化等に関するもので高い水準に達した研究。
※「一般」、「学術」の区分について、詳しくは姫路文学館までお問い合わせください。

応募方法

どなたでもご応募できます。自薦、他薦は問いません（全国の大学等研究機関、図書館、出版社、報道関係等の諸機関に周知および推薦を依頼しています）。

応募規定

付属の推薦用紙等に下記の項目を明記の上、姫路文学館までお送りください（ファクシミリ、電子メールでも可）。自薦（出版社からのご推薦を含む）の場合は、作品（できれば2冊）をお送りください。

①部門（一般部門・学術部門） ②推薦作品名（ふりがな） ③著者名（ふりがな） ④出版社名
⑤出版年月日 ⑥推薦者名（ふりがな） ⑦住所 ⑧郵便番号 ⑨電話番号

※このほか推薦理由などございましたらお書きください。

●当館のホームページから推薦用紙をダウンロードしていただくこともできます。

<http://www.himejibungakukan.jp/>

姫路文学館 〒670-0021 兵庫県姫路市山野井町84番地

電話 079-293-8228 FAX 079-298-2533

E-Mail kyo-bungaku@city.himeji.lg.jp

締切 令和3年（2021年）9月3日（金）（当日消印有効）

*令和3年（2021年）8月中に発刊される作品のご応募が締め切りに間に合わない場合は、その旨を事務局にお知らせください。

発 表

令和4年（2022年）2月（予定） 報道機関を通じて発表します。

授 賞 式

令和4年（2022年）3月6日（日）

これまでの受賞作品

第1回(昭和63年度)

一般部門 大久保喬樹『岡倉天心 驚異的な光に満ちた空虚』(小沢書店)

学術部門 ウィリアム・R・ラフルーア『廃墟に立つ理性ー戦後合理性論争における和辻哲郎の位相』(『戦後日本の精神史』岩波書店 所収)

第2回(平成元年度)

一般部門 宇佐美 斉『落日論』(筑摩書房)

学術部門 上山 安敏『フロイトとユング 精神分析運動とヨーロッパ知識社会』(岩波書店)

第3回(平成2年度)

一般部門 中西 進『万葉と海彼』(角川書店)

学術部門 永積 洋子『近世初期の外交』(創文社)

第4回(平成3年度)

一般部門 野口 武彦『江戸の兵学思想』(中央公論社)

学術部門 ヘルマン・オームス『徳川イデオロギー』(ペリカン社)

第5回(平成4年度)

一般部門 郡司 正勝『郡司正勝刪定集』全6巻(白水社)

学術部門 大森 莊蔵『時間と自我』(青土社)

第6回(平成5年度)

一般部門 土居 良三『咸臨丸海を渡るー曾祖父・長尾幸作の日記より』(未来社)

学術部門 加藤 尚武『哲学の使命 ヘーゲル哲学の精神と世界』(未来社)

第7回(平成6年度)

一般部門 堀田 善衛『ミシェル城館の人』全3巻(集英社)

〃 山内 昶『「食」の歴史人類学ー比較文化論の地平』(人文書院)

学術部門 関根 清三『旧約における超越と象徴 解釈学的経験の系譜』(東京大学出版会)

第8回(平成7年度)

一般部門 井上 義夫『評伝 D・H・ロレンス』全3巻(小沢書店)

学術部門 阿部 良雄『シャルル・ボードレー『現代性の成立』』(河出書房新社)

第9回(平成8年度)

一般部門 長谷川三千子『バベルの謎 ヤハウィストの冒険』(中央公論社)

学術部門 小野 清美『テクノクラートの世界とナチズムー「近代超克」のユートピアー』(ミネルヴァ書房)

第10回(平成9年度)

一般部門 徳永 恂『ヴェニスのゲッターにて 反ユダヤ主義思想史への旅』(みすず書房)

学術部門 一ノ瀬正樹『人格知識論の生成ージョン・ロックの瞬間』(東京大学出版会)

第11回(平成10年度)

一般部門 嶋田 義仁『稲作文化の世界観 「古事記」神代神話を読む』(平凡社)

学術部門 佐々木 毅『プラトンの呪縛ー20世紀の哲学と政治』(講談社)

第12回(平成11年度)

一般部門 西村 三郎『文明のなかの博物学 西欧と日本』(紀伊國屋書店)

〃 渡辺 京二『逝きし世の面影 日本近代素描 I』(葦書房)

学術部門 宇都宮芳明『カントと神 理性信仰・道徳・宗教』(岩波書店)

第13回(平成12年度)

一般部門 稲賀 繁美『絵画の東方 オリエンタリズムからジャポニスムへ』(名古屋大学出版会)

学術部門 小林 道夫『デカルト哲学とその射程』(弘文堂)

第14回(平成13年度)

一般部門 岡野 弘彦『折口信夫伝 その思想と学問』(中央公論新社)

〃 山折 哲雄『愛欲の精神史』(小学館)

学術部門 ケイト・W・ナカイ『新井白石の政治戦略 儒学と史論』(東京大学出版会)

第15回(平成14年度)

一般部門 長部日出雄『桜桃とキリスト もう一つの太宰治伝』(文藝春秋)

学術部門 木村 敏『木村敏著作集第7巻 臨床哲学論文集』(弘文堂)

〃 植村恒一郎『時間の本性』(勁草書房)

第16回(平成15年度)

一般部門 秋山 駿『神経と夢想 私の『罪と罰』』(講談社)

学術部門 塩川 徹也『パスカル考』(岩波書店)

第17回(平成16年度)

一般部門 平川 祐弘『ラフカディオ・ハーン 植民地化・キリスト教化・文明開化』(ミネルヴァ書房)

学術部門 井上 達夫『法という企て』(東京大学出版会)

第18回(平成17年度)

一般部門 新倉 俊一『評伝 西脇順三郎』(慶應義塾大学出版会)

学術部門 佐藤 康邦『カント『判断力批判』と現代ー目的論の新たな可能性を求めてー』(岩波書店)

第19回(平成18年度)

一般部門 大泉 光一『支倉常長 慶長遣欧使節の真相―肖像画に秘められた実像―』(雄山閣)

学術部門 今道 友信『美の存立と生成』(ピナケス出版)

第20回(平成19年度)

一般部門 岩下 尚史『芸者論 神々に扮することを忘れた日本人』(雄山閣)

学術部門 伊藤 邦武『パースの宇宙論』(岩波書店)

第21回(平成20年度)

一般部門 岡谷 公二『南海漂蕩 ミクロネシアに魅せられた土方久功・杉浦佐助・中島敦』(富山房インターナショナル)

学術部門 森 一郎『死と誕生 ハイデガー・九鬼周造・アーレント』(東京大学出版会)

第22回(平成21年度)

一般部門 今橋 理子『秋田蘭画の近代 小田野直武「不忍池図」を読む』(東京大学出版会)

学術部門 互 盛央『フェルディナン・ド・ソシュール 〈言語学〉の孤独、「一般言語学」の夢』(作品社)

第23回(平成22年度)

一般部門 杉田 弘子『漱石の『猫』とニーチェ 稀代の哲学者に震撼した近代日本の知性たち』(白水社)

学術部門 権左 武志『ヘーゲルにおける理性・国家・歴史』(岩波書店)

第24回(平成23年度)

一般部門 末延 芳晴『正岡子規、従軍す』(平凡社)

学術部門 中畑 正志『魂の変容 心的基礎概念の歴史的構成』(岩波書店)

第25回(平成24年度)

一般部門 劉 岸偉『周作人伝 ある知日派文人の精神史』(ミネルヴァ書房)

安住 恭子『『草枕』の那美と辛亥革命』(白水社)

学術部門 中島 隆博『共生のプラクシス 国家と宗教』(東京大学出版会)

第26回(平成25年度)

一般部門 池田美紀子『夏目漱石 眼は識る東西の字』(国書刊行会)

学術部門 野本 和幸『フレーゲ哲学の全貌 論理主義論と意味論の原型』(勁草書房)

第27回(平成26年度)

一般部門 亀井 俊介『有島武郎 世間に対して真剣勝負をし続けて』(ミネルヴァ書房)

学術部門 稲垣 良典『トマス・アキナスの神学』(創文社)『トマス・アキナス 存在(エッセ)の形而上学』(春秋社)

第28回(平成27年度)

一般部門 勝又 浩『私小説千年史 日記文学から近代文学まで』(勉誠出版)

学術部門 佐藤 光『柳宗悦とウィリアム・ブレイク 環流する「肯定の思想」』(東京大学出版会)

第29回(平成28年度)

一般部門 山口 謠司『日本語を作った男 上田万年とその時代』(集英社インターナショナル)

学術部門 野矢 茂樹『心という難問 空間・身体・意味』(講談社)

第30回(平成29年度)

一般部門 保阪 正康『ナショナリズムの昭和』(幻戯書房)

学術部門 竹峰 義和『〈救済〉のメーディウム ベンヤミン、アドルノ、クルーゲ』(東京大学出版会)

第31回(平成30年度)

一般部門 平川 新『戦国日本と大航海時代 秀吉・家康・政宗の外交戦略』(中央公論新社)

学術部門 石川 求『カントと無限判断の世界』(法政大学出版局)

第32回(令和元年度)

一般部門 白川 方明『中央銀行 セントラルバンカーの経験した39年』(東洋経済新報社)

学術部門 松井 裕美『キュビズム芸術史 20世紀西洋美術と新しい〈現実〉』(名古屋大学出版会)

第33回(令和2年度)

一般部門 サンドラ・シャル『『女工哀史』を再考する―失われた女性の声を求めて』(京都大学学術出版会)

学術部門 宮本 久雄『パウロの神秘論 他者との相生の地平をひらく』(東京大学出版会)

令和3年5月21日

各部局等の長殿

研究推進部長
山口 茂

公益財団法人井上科学振興財団 第38回(2021年度)
井上研究奨励賞受賞候補者の推薦について(通知)

このことについて、公益財団法人井上科学振興財団理事長より推薦依頼がありましたのでお知らせします。

つきましては、貴部局で推薦候補者がいる場合は、下記の必要書類をご提出願います。

なお、本賞には18件の推薦枠が設けられていることから、枠数を超える推薦があった場合には学内選考を行いますので、推薦順位を記した書類(別紙)を添えてご提出願います。

また、本賞については、大阪大学ホームページの外部資金等公募情報にも情報を掲載しております。https://www.osaka-u.ac.jp/ja/research/researchinfo/2021/20210917_01

記

【推薦対象】

2018年4月1日～2021年3月31日の間に理学・工学・医学・薬学・農学等の自然科学の基礎的研究において、新しい領域を開拓する可能性のある優れた博士論文を提出し、本学にて博士の学位を取得した研究者で、2021年9月20日現在の年齢が37歳未満の者。

【提出書類・方法】

- ①井上研究奨励賞受賞候補者推薦順位リスト 紙媒体ならびに電子媒体(PDFファイル)
※候補者が1名の場合もご提出願います。
- ②受賞候補者推薦書 紙媒体2部並びに電子媒体(PDFファイル)
- ③博士論文の概要 電子媒体(PDFファイル)
※A4版で1～2ページ(任意様式)
※冒頭に、論文題目と大学・研究科・氏名を記入
- ④博士論文 電子媒体(PDFファイル)

◆推薦要項、様式等については、以下の財団HPをご参照願います。

公益財団法人井上科学振興財団 (<http://www.inoue-zaidan.or.jp/>)

紙媒体の提出書類は、学内便にて送付願います。

電子媒体の提出書類は、ネットワークフォルダーに格納(Y:¥研究推進部¥学術研究推進係¥研究助成)し、必ずメールにてその旨ご報告願います。

提出期限：令和3年8月27日(金) 17:00(厳守)

【提出先】

研究推進部研究推進課学術研究推進係 担当：松嶋(内線4342)

E-mail:kensui-kensui-gakuzyutu@office.osaka-u.ac.jp

【留意点】

- ・大阪大学内において、学位取得時と現在の所属部局が異なる場合、推薦は原則として現在の所属部局よりご提出いただくようお願いいたします。
- ・推薦書の作成者は原則として、博士論文の作成を指導した研究者となります。

以上

公益財団法人井上科学振興財団 第38回（2021年度）

井上研究奨励賞 受賞候補者推薦順位リスト

部局事務 担当者連絡先

所属部署	
氏 名	
内 線	

推薦順位	所 属	職	氏 名	学 位 記入例) 博士(〇〇)	年 齢 2021年9月20日現在

推薦順位に関して特記すべき意見、理由等がありましたら記入してください。